

|                   |      |    |       |    |
|-------------------|------|----|-------|----|
| 【担当教員名】<br>川中 健太郎 | 対象学年 | 1  | 対象学科  | 健康 |
|                   | 開講時期 | 前期 | 必修・選択 | 必修 |
|                   | 単位数  | 2  | 時間数   | 30 |

概要

これからの栄養士は、摂取した食物がどのように身体内で代謝されて利用されるかについてよく理解し、その知見を栄養指導等に生かしていく能力が必要とされる。解剖生理学ⅠおよびⅡではこれらの能力の土台となる”身体”の構造と機能についての基本的な知識”を学習する。解剖生理学Ⅰでは、特に、栄養生理的な面を強調して、身体”の構造と働きについて学習する。

学習目標

- 1) ”細胞”とその集合体である”組織”について理解する。栄養素が消化・吸収されてエネルギー源として利用されるしくみを理解して説明できるようになる。
- 2) 栄養素が消化・吸収されてエネルギー源として利用されるしくみを理解して説明できるようになる。
- 3) 代謝された栄養素の排泄の仕組みを理解して説明できるようになる
- 4) 生活習慣病の成り立ちを生理学的に説明できるようになる。
- 5) 身体が恒常性を保つ仕組みを理解して説明できるようになる。

| 回数 | 授業計画又は学習の主題 | SBO |                 |
|----|-------------|-----|-----------------|
|    |             | 番号  | 学習方法            |
| 1  | ガイダンス       |     | 講義<br>一部、ビデオを活用 |
| 2  | 人体の構造       |     |                 |
| 3  | 細胞と組織       |     |                 |
| 4  |             |     |                 |
| 5  | 消化と吸収       |     |                 |
| 6  |             |     |                 |
| 7  |             |     |                 |
| 8  |             |     |                 |
| 9  |             |     |                 |
| 10 | 循環系         |     |                 |
| 11 |             |     |                 |
| 12 |             |     |                 |
| 13 |             |     |                 |
| 14 |             |     |                 |

| 【使用図書】 | <書名>     | <著者名> | <発行所>  | <発行年・価格・その他> |
|--------|----------|-------|--------|--------------|
| 教科書    | 人体の構造と機能 | 解剖生理学 | メディカ出版 | 2004年 4800円  |
| 参考書    |          |       |        |              |
| その他の資料 |          |       |        |              |

|                     |  |
|---------------------|--|
| 【評価方法】<br>期末試験と出席状況 | 【履修上の留意点】<br>高校時代に”化学” ”生物”を履修していない学生、または、理解が不十分な学生は補講の”化学”と”生物”を受講して学力を補強しながら授業に臨むこと。 |
|---------------------|--|

健康栄養学科 専門